

上岡議員、景山議員が聴く まちづくり会社の 素顔と描く未来

表紙写真／話をお聞きした新川さん

安芸津町で立ち上がったまちづくり会社。
今回は、本業の会社経営とまちづくり会社の
運営という二足の草鞋^{わらじ}を履く新川さんにお話を
聞かせていただきました。家族を持つ現役世代
としてどういう地域を目指しているのか伺いま
す。

話をお聞きした方



合同会社トモシビファーム
代表社員 新川 隼人さん

あきつとあしたに、合同会社トモシビファーム 仲間と描く「未来」をカタチに

Q まちづくり会社発足の背景
について教えてください。

新川 まちづくり会社「合同会社トモシビファーム」を立ち上げる前は、本業である建設会社として※「コワーキングスペース third（サード）」を運営していました。「コワーキングスペース

を開設する際は、「地域の今後について、みんなで話し合える場所があった方がよい」という周りからの声があり、異色の経歴を持つ方々に相談したところ、アドバイスを頂くことができた。その後、色々なイベント企画を行っていたのですが、ま

ちづくりということを考えると、新たに別の団体を作った方がよいのではないと思い、地域課題の解決事業として東広島市が取り組んでいる「※トルク事業」を通じて会社を設立しました。

Q 立ち上げからの取組みについて教えてください。

新川 大きくは2つあります。最初にやろうと考えていたのはポータルサイトを作ることなのですが、こちらはもう完成しました。このサイトを作ろうと思った背景としては、インターネットで安芸津町を検索したときに、特産品や観光スポットなどの情報は出てくるのですが、魅力的な人や、その人たちがしている仕事、価格的に手が届く空き家物件の紹介など、情報発信できるものは他にもあるのではと思ったからです。2つ目の取組

※コワーキング

トルク事業

異なる職業や仕事を持つ人が事務所スペースや会議スペースなどを共有しながら独立した仕事をする。全国のスタートアップ企業や複業人材などからアイデアや解決策を持ち寄りながら、地域の団体や住民などと一緒に地域課題の解決を行う協創プロジェクト



- ① 取材風景
- ② ブランディング事業のメンバー
- ③ ブランディング事業でのワークショップ
- ④ ポータルサイトの冊子
- ⑤ ポータルサイトのQRコード
- ⑥ 「手zukuriハンドメイド」販売イベント

みとしては、地域おこし事業の一環として月に1回、まちづくりに関するワークショップを開催しています。中国経済産業局が手掛ける「中国地域ブランディングプロジェクト」というのがありますが、このプロジェクトは中長期的に「地域をこうしていきたい」という展望を皆で考えていく取組みで、ありがたいことに事業採択していただきました。町内メンバーは勿論のこと、安芸津の魅力を更に見出すため、安芸津愛あふれる町外在住の方たちにも参加していただいています。地元に住んでいると当たり前と思って見落しがちな魅力が、町外の方のアンテナにひっかかったりします。

Q 取組みの中で大切にしていることは何ですか？

新川 やっぱ持続性は大事だと思っています。新型コロナウィルスによって社会全体が大きく影響を受けている時に改めて感じたのですが、飲食業などは物凄く影響を受けている中、僕

たち建設業界は影響を受けにくい業界でした。会社の存続といたった目線ではありがたい話なのですが、地域の持続性を考えると自分たちだけが助かればいいわけでもなく、みんなで良くなっていけないと色々な活動も続けることができないですからね。

Q 今後の挑戦や展望について教えてください。

新川 「こうなりたい」というものをみんなで作ることですね。幸運にも、経済産業省やJR西日本の方々ともまちづくり事業に取り組むことができていますので、ビジョンだけで終わるのではなく、色々な方からの知見やつながりをお借りして、実行レベルまで進めていきたいですね。地域の人たちの思いと自分たちの思いが重なる部分を見つけてやっていきたいですし、活動を通じて、子どもたちから「やっぱり地元が好き」と言ってもらえる地域にしたいですし、反対に「二度と帰りたくない」と思われないような地域にしていきたいですね。